

(鹿児島市大竜町11番44号)

位置と環境

鹿児島市の北部、上町台地とよばれる標高約10mの海浜性の砂丘台地の中央大龍小学校敷地一帯にある。東側は稲荷川、北側は暗渠となつてあひる川が流れている。この低台地には春日町遺跡 若宮遺跡などが所在し、大龍遺跡群として周知されている。中世には内城、近世には大龍寺があった。現在この一帯は市街地となり住宅が密集している。

調査の経緯

大龍遺跡は、昭和30年「鹿児島のおいたち 先史時代」で河口貞徳によって縄文時代、市来式、指宿式の遺跡として報告されているのが最初である。その後昭和52年のプール建設に伴う第1次調査から、昭和62年の第8次調査まで校舎の増改築の度ごとに鹿児島市教育委員会が調査を実施している。なお、第1次～6次までは上村俊雄が調査を実施した。

遺構と遺物

これまでの調査の結果、縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世、近世と各時代にわたつての遺物が発見されており、人々が永々と居住した複合遺跡であることが判明した。縄文時代では前期末の深浦式、中期の並木式、阿高式、後期の指宿式、松山式、市



第1図 大龍遺跡の位置

来式、鐘崎式、御領式、納曽式、晩期の入佐式、夜臼式土器、古墳時代の成川式土器、中世の青磁、白磁、青花、土師器、近世の陶磁器、瓦等の遺物の出土があった。

これらの中で市来式土器を伴う炉跡、御領式の甕棺葬跡、古墳時代の竪穴住居跡、中世の石組井戸、近世の土坑、水道石管などが注目される。なお、石器や軽石加工品も多種、多様なものが発見されており、この遺跡の重要性を示している。

特徴

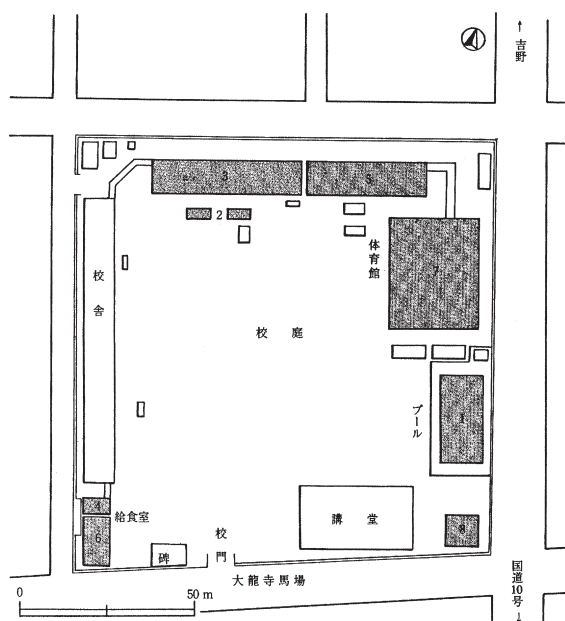
縄文時代後期の遺物の多彩さと近世陶磁器類の膨大な出土量は、この時代の研究には欠かせない資料となっている。特に軽石加工品は注目される。

資料の所在

出土遺物および調査資料は、鹿児島市立ふるさと考古歴史資料館に保管され、一部は展示されている。

参考文献

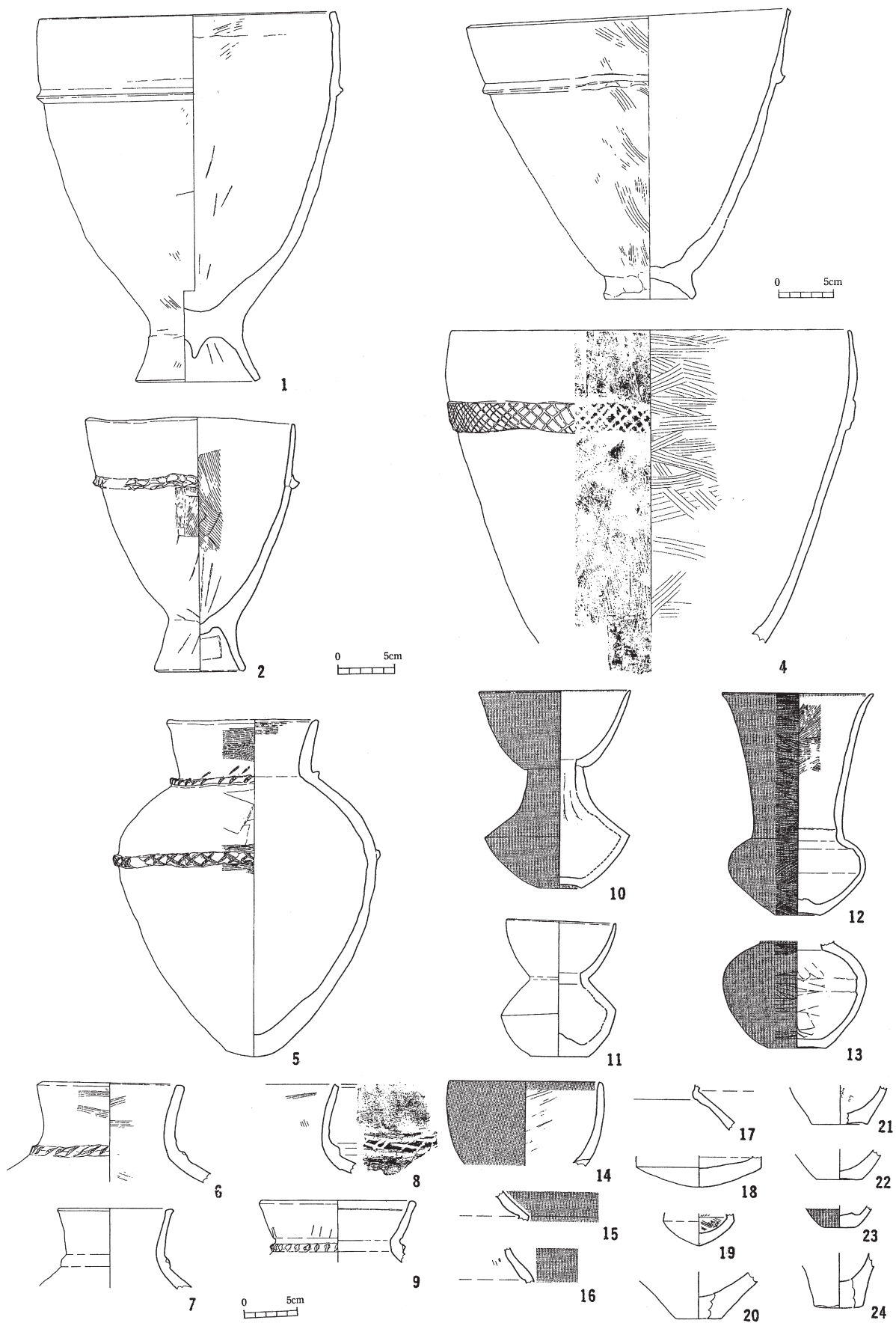
鹿児島市教育委員会1979～2001「大龍遺跡」『鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書』(1)(2)(7)(15)(32)(33) (出口 浩)



第2図 大龍遺跡 第1次～8次調査地点(アミ)



写真1 第7次調査 土坑検出状況(北から)昭和59年7月



第3図 第8次調査出土遺物 成川式土器 (1~24)